

平成26年度 流域管理システム推進の取組結果表

No. 1

大分森林管理署

取 組 名	民有林と連携した森林整備の推進（継続）
流 域 名	大分南部流域
実施箇所及び実施日	大分森林管理署（運営会議 3回開催）平成26年8月～27年2月 佐伯市傾山地域森林共同施業団地（事業実行） 平成26年7月～平成27年3月
取組の背景及び必要性	森林・林業の再生に資するため、民有林と国有林が森林整備推進協定を締結して森林共同施業団地を設定し、その区域において民有林・国有林が連携した合理的な路網の整備及び効率的な森林施業を推進する必要がある。
取組の内容	【これまでの取組内容】 森林共同施業団地を設定する森林整備推進協定の締結を目指して、大分県、（独）森林総合研究所森林農地整備センター大分水源林整備事務所、（公財）森林ネットおおいた及び佐伯広域森林組合と打合せを重ね、平成24年11月に大分県及び（独）森林総合研究所森林農地整備センター大分水源林整備事務所と佐伯市傾山地域森林整備推進協定を締結した。 協定締結後は、民有林・国有林が連携した合理的な路網の整備を目指して、林業専用道の整備に取り組んだ。 【平成26年度の取組内容】 大分森林管理署は、森林整備（間伐）を実施した。 また、協定条項に基づいた運営会議を開催し、事業計画等について連絡調整を行うとともに、協定を延長することとし、新たに27年4月を始期とする5年間の協定を締結した。
国有林担当部局・役割	大分森林管理署 （事業実行の検討、森林整備の実行、運営会議の開催）
連携協働相手先・役割	大分県（事業実行の検討、運営会議への参加） （独）森林総合研究所森林農地整備センター 大分水源林整備事務所（事業実行の検討、運営会議への参加）

取組状況



運営会議の様子

平成26年度 流域管理システム推進の取組結果表

No. 2

大分森林管理署

取 組 名	低コスト・高効率な作業システムの整備・普及（継続）
流 域 名	大分南部流域・大分中部流域
実施箇所及び実施日	大分森林管理署茅野国有林（低コスト育林システム検討会） 平成26年9月24日 大分森林管理署神角寺国有林（森林作業道現地検討会） 平成26年11月13日
取組の背景及び必要性	森林・林業の再生のためには、低コスト路網と高性能林業機械を組み合わせた木材生産の作業システムや低コスト造林の整備・普及を図る必要がある。
取組の内容	【これまでの取組】 大分森林管理署は、流域林業活性化センターと連携し、国有林内で森林作業道現地検討会、コンテナ苗活用低コスト造林現地検討会等を開催し、県、市町村、森林組合、林業事業体等と、効率的な木材生産の作業システムや低コスト造林の整備・普及に向けた意見交換を実施してきた。また、超大苗を植付けることにより、獣害防止ネット設置と下刈りを省く低コスト造林試験を行い、結果を流域管理システム推進発表大会において発表した。 【平成26年度の取組】 大分森林管理署は、流域林業活性化センターと連携し、国有林内の搬出間伐実施箇所及び搬出間伐予定箇所「森林作業道現地検討会」を開催し、県、市、森林組合、林業事業体等と、より良い森林作業道作設による効率的な木材生産の作業システムの整備・普及に向けて、意見交換を実施した。 流域林業活性化センターは、大分森林管理署と連携し、低コスト育林システム検討会を茅野国有林の大苗試験地をフィールドとして開催し、大苗植栽による低コスト育林システムの整備・普及について意見交換を実施した。
国有林担当部局・役割	大分森林管理署 (検討会の計画・案内・実行)
連携協働相手先・役割	流域林業活性化センター（検討会の計画・案内・実行・参加） 大分県、市町村、森林組合、林業事業体等（検討会への参加）
取組状況	
 低コスト育林システム検討会  森林作業道現地検討会	

平成26年度 流域管理システム推進の取組結果表

No. 3

大分森林管理署

取 組 名	民有林・国有林連携による間伐展示林の活用（継続）
流 域 名	大分南部流域・大分中部流域
実施箇所及び実施日	大分森林管理署星岳国有林 平成26年 7 月 4日 大分森林管理署星岳国有林（案内板作成）平成27年2月～3月
取組の背景及び必要性	流域林業活性化センターと連携して国有林内に設定した、各種の間伐方法が比較検討できる間伐展示林を、民有林・国有林が連携して検討会や研修の場として活用し、森林・林業の再生に欠かせない間伐の推進に寄与する必要がある。
取組の内容	【これまでの取組内容】 大分森林管理署は、各種（列状、定性、帯状、放射列状、鋸谷式）の間伐方法が比較検討できる間伐展示林として、平成17年度に流域林業活性化センターと連携して国有林内に設定し、民有林・国有林が連携した検討会や研修の場としての活用を呼びかけ、研修時には講師を派遣してきた。 また、この間伐展示林は、大分県から「次世代林業の森林づくりモデル林」にも指定された。 【平成26年度の取組内容】 大分県から林業研修業務を受託した（公財）森林ネットおおいたが、間伐技術研修で間伐展示林の視察研修を企画し、大分森林管理署から講師を派遣して説明し、研修生が各種の間伐方法について理解を深めた。 また、前回間伐から9年経ち個体間競争が高まってきたことから、関係者が現地検討を行った結果に基づき、間伐を実施し、案内板を作成した。
国有林担当部局・役割	大分森林管理署 （フィールド提供、紹介、講師派遣、間伐の実行）
連携協働相手先・役割	流域林業活性化センター（間伐展示林の紹介） （公財）森林ネットおおいた（研修の企画・実行）

取組状況



間伐実行前



間伐実行後

平成26年度 流域管理システム推進の取組結果表

No. 4

大分森林管理署

取 組 名	シカ被害防止対策の実施（継続）
流 域 名	大分南部流域・大分中部流域
実施箇所及び実施日	大分県由布市、佐伯市、豊後大野市、竹田市、大分市 平成26年4月～平成27年3月
取組の背景及び必要性	適正頭数を大幅に上回るシカが生息し、森林に大きな被害が発生していることから、森林・林業の再生のためには、シカを捕獲して適正頭数に調整し、被害を防止する必要がある。
取組の内容	【これまでの取組内容】 大分県は、鳥獣被害対策本部（県、市町村、森林管理署、猟友会、森林組合連合会、農協中央会等で構成）を設置してシカ被害防止対策に取組、猟友会がシカ捕獲を実施してきた。 由布市は、鳥獣害防止対策協議会（県、市、森林管理署、猟友会、森林組合、農協等で構成）で効果的なシカ捕獲方法を検討した結果、国有林内での追込み式捕獲等を実施することにし、協議会構成機関が協力して追込み用獣害防止ネットを設置し、シカ捕獲は猟友会への委託によって実施してきた。 大分森林管理署は罠によるシカ捕獲にも取組、森林管理局は大分南部流域内で誘引狙撃の試行を実施してきた。 【平成26年度の取組内容】 大分県は、鳥獣被害対策本部で協議を行ってシカ被害防止対策に取組、また、鳥獣害対策研修を実施、猟友会がシカ捕獲を実施した。 由布市は、猟友会へ委託して国有林内での追込み式等によってシカ捕獲を実施し、実行結果は鳥獣害防止対策協議会で協議を行うなど、関係機関の協力を得てシカ捕獲に取り組んだ。 大分森林管理署は罠によるシカ捕獲研修を実施すると共にシカ捕獲に取組、森林管理局は大分南部流域内で誘引狙撃の実証試験を実施した。
国有林担当部局・役割	九州森林管理局（誘引狙撃実証試験） 大分森林管理署 （対策本部と協議会へ協力、シカ捕獲及び研修実施）
連携協働相手先・役割	大分県と各市 （被害防止対策の推進、情報の収集・提供、研修実施） 猟友会（シカ捕獲） 由布市鳥獣害防止対策協議会（被害防止対策）

取組状況



シャープ・シューティング現地視察の様子



シカ捕獲研修の様子

平成26年度 流域管理システム推進の取組結果表

No. 5

大分森林管理署

取 組 名	ミヤマキリシマの保全活動（継続）
流 域 名	大分中部流域
実施箇所及び実施日	大分森林管理署久住山国有林（除伐）平成26年4月～5月
取組の背景及び必要性	国立公園に指定されている「くじゅう連山」は、山頂部にミヤマキリシマが群生し、一部は国指定天然記念物になっているが、他の樹木の被圧によって大幅に減少し、大分県版レッドリストの準絶滅危惧種になっていること、また、年間に約30万人の登山者があり踏み込みによって損傷も見受けられることから、ミヤマキリシマを保全する取組が必要となっている。
取組の内容	【これまでの取組内容】 大分森林管理署、環境省、くじゅう地区管理運営協議会、NPO法人、山岳連盟は協力して、ミヤマキリシマを被圧している樹木の除伐を実施した。また、登山道沿いに立入規制のロープ柵と看板を設置した。 【平成26年度の取組内容】 くじゅう地区管理運営協議会（環境省、森林管理署、県、市町、観光協会、NPO法人等37機関・団体で構成）は、ミヤマキリシマ保全活動資金として寄付を申し出た法人と協定を締結し、ミヤマキリシマを被圧している樹木の除伐を実施した。
国有林担当部局・役割	大分森林管理署 (除伐作業実行)
連携協働相手先・役割	くじゅう地区管理運営協議会 (協定締結・除伐作業実行)

取組状況



除伐作業の様子